

【研究発表4】 第18席**「『素問』と『靈枢』の成立」**

宮城 松木きか

「黄帝内経」は『素問』と『靈枢』の併称であり、伝統的な医学の有様を伝える基本的な文献とされる。しかしながら、「内経」の内容をとらえようとする時、同一の術語によって示された事柄であっても、同じ条件を満たしているとは限らず、全体としてのまとまりを認めるためには、様々な齟齬の調整が必要であった。

「内経」は、どのような構成を持つ医経ととらえればよいのか。それ以前の医学からどのような面を受け継ぎ、伝統的な医学にどのような面を残しているのか。また『素問』と『靈枢』の両書は、どのようにその内容を分かつたことによって成書したのか。本論は、治療の手法に着目し、それぞれの内容によって節目を見出し、それぞれの関連を発展的にとらえながら『素問』と『靈枢』の成立について考察するものである。